

《第 4 7 回札幌市中学校体育連盟軟式野球選手権大会規則》

※**ゴシック体太字**は今年度変更事項。

1. 試合規則は、**2025** 年度公認野球規則、競技者必携 **2025** および大会特別規則を適用する。
2. 試合回数は、7 回戦とする。
3. コールドゲームは、4 回終了後 1 0 点差、5 回終了後 7 点差以上とする。日没・降雨により試合続行が不可能な場合、**4 回に満たない場合はサスペンデッドゲームとし、後日、継続試合を行う。**
4. 7 回終了時点で同点の時は、延長戦は行わず、延長特別ルール（タイブレーク：以下参照）を適用する。

【延長特別ルール（タイブレーク）】

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。すなわち、0 アウト・二塁の状態にして、勝敗が決するまで続行する。

5. 塁間は 27.43m、投捕間は 18.44m とする。また、本塁の周りにダートサークルを引く。
6. 審判員のルール適用に対する疑義の申し出は、監督または該当選手に限る。また、審判員の判定に対しては抗議できない。
7. 規則 5.10(d)原注〔前段〕「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。」は適用しない。
8. 監督が 1 試合にマウンドに行ける回数は 3 回以内とする。なお、タイブレークは、1 イニングに 1 回行くことができる。
9. 捕手または内野手が 1 試合に投手の所へ行く回数は 3 回以内とする。なお、延長戦（タイブレーク方式を含む）となった場合は、1 イニングに 1 回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば双方 1 回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。公認規則 5.10(m)(3)「サインの確認」であっても上記の回数を超えてマウンドに行くことはできない。
10. 攻撃側のタイムは、1 試合に 3 回以内とする。なお、延長戦（タイブレーク方式を含む）は、2 イニングに 1 回とする。
11. 守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の 1 回とカウントされる。
12. 攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の 1 回とカウントされる。
13. 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、投手の投球制限については、1 日 1 0 0 球以内とする。ただし、1 0 0 球に達した場合はその打者が終了するまで投球できる。ボークとしたものも投球数に数える。タイブレークの場合 1 日 1 0 0 球以内ならば継続投球できる。牽制球や送球は投球数としない。また、一週間の投球数は 3 5 0 球を限度とする。
14. 使用球は、全日本軟式野球連盟公認 M 号とする（ボールは各 2 個ずつ持ち寄る）。
15. バットは木製バット、及び全軟連公認のバットのうち、原則として J.S.B.B. のマークをつけた全日本軟式野球連盟公認の「軟式用」（但し、軟式少年用を除く）の表示のあるものとする。マスコットバット・鉄棒・バットリングの使用は禁止する。
16. 事故防止のため、打者・走者はヘルメット、捕手はレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガード・ファールカップを必ず着用すること。なお、打者走者のヘルメットおよび捕手のマスクは、いずれも全日本軟式野球連盟公認のものであること。捕手のマスク以外の用具は、全軟野連公認のものか、硬式野球用のものかのいずれかで差し支えない。
17. ランナーズコーチはヘルメットを着用する。また、シートノックでノッカーにボールを渡す選手は、ヘルメットを着用すること。
18. 打者・走者のバッティンググラブの使用は認める。ただし、色は白または黒の無地とする。守備においては、投手以外は認める。なお、使用に際しては 試合の進行に支障のないようにすること。サポーター機能付き手袋の使用は認めない。

19. 選手のユニホームは下げ過ぎないようにし、ストッキングをはっきり見えるようにする。事故防止のため、ハイカットのストッキングおよびソックス一体型のストッキングは禁止とし、**同型、同色、同意匠とする。**
20. リストバンド、個人名入りのユニホーム及び下衣のロングパンツは禁止する。スパイクは、白色・黒色のスパイクの混在を可とする。ライン・商標等で色が異なるものは禁止する。
21. 監督は選手と同一のユニホームで背番号 30 番をつけ、野球帽、ストッキング、スパイクまたはこれと同色のシューズを履き、サングラスはかけない（身体上特別な事情があるときは大会本部に申し出をし、指示を仰ぐこと）。コーチも同様の服装で、背番号 29 番・28 番をつける。ただし、シートノックを行わずグラウンドへ出る機会のないコーチは、同一の野球帽をかぶり平服でも構わない。
22. 第 1 試合は、試合開始予定時刻の 30 分前、第 2 試合以降は、前の試合の 4 回終了後にオーダー用紙を交換し、攻守を決定する。オーダー用紙は 3 部提出し、必ず読みがなをつける。同姓がいる場合は、名前まで記入する。提出にあたっては、試合出場する可能性のある選手全員を記入すること。
23. ベンチは、組合せ番号が若い方が一塁側とする。**ただし、1 チームが 2 試合続けて行う場合はベンチの入れ替えは行わない。**
24. ベンチ入りは、監督（引率責任者）1 名、コーチ 2 名以内（ただし外部指導者は 1 名までとする）、スコアラー 1 名以内、選手 9 名～18 名以内とする。但し、学校長のベンチ入りは認める。
25. シートノックは、後攻側から始めて 5 分以内とする。グラウンド内は、ノッカー（服装等は 18. と同じ）・登録選手・スコアラー・3 名以内の補助生徒（服装等はノッカーと同一で、背番号はつけなくてよい）以外は入ることができない。シートノック時にマウンド付近は使用しない。また、各チームシートノックの実施は、任意とする。シートノックを行っていないチームの選手は、ベンチ内またはベンチ前に待機する。ファールエリアで素振りなどは行わない。
26. ベンチ内での電子機器類（スマートフォンやタブレット等）の使用を禁止とする。
27. 次試合の先発バッテリーには、メンバー用紙交換後、指定されたブルペンの使用を認める。ただし、試合中のチームの了承を得ること。その時、該当選手はスパイクを履き、捕手はすべての用具を着用することとする。
- ~~28. 合同チームがユニフォームを揃えないで自校のユニフォームで参加する場合、打席時のヘルメットや守備時の帽子を自校のものを使用すること。~~
29. 球場芝生内でのバッティング行為（ノック、トスバッティング、素振り等）は禁止する。
30. 攻守交代は迅速に行い、先頭打者とランナーズコーチは、打合わせに出ないで所定の位置に着く。無用のタイムは慎み、試合進行に協力すること。
31. 選手交代の申し出は監督が行うこと。この時、グラウンドコートでは出ないこと。
32. コーチは、試合前のノックを行う時以外は、ベンチから出ないこと。
33. グラウンドマナー、応援については、中学生らしい態度であること。
34. 試合終了後の挨拶ですべて完了とし、相手ベンチや本部への挨拶は省略し、次の試合のためにベンチを速やかにあけること。準決勝後は、3 位表彰があるので係の指示に従うこと。